

令和5年度 第13回

風雅を楽しむ秋の集い

「鵬翔流吟友会・六六庵吟詠会高知県本部合同」

日時 令和5年11月12日(日)午後1時 開演
会場 高知市立自由民権記念館 TEL088-831-3336
高知市棧橋通4丁目14-3
主催 鵬翔流吟友会

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以つて人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携 師友 鷗盟を 結び

偏に 詩歌を 探つて 妙聲を 琢く

風雅の 精神 承継を 誓い

更に 期す 吟道 百年の 誠

ご挨拶

鵬翔流吟友会
会長 梶田鵬翔

暑かった夏も漸く過ぎ、爽やかな芸術の秋を迎えました。

今年、牧野富太郎博士の生涯を描いた朝ドラ「らんまん」で始まり、コロナ感染症や少子高齢、人口減少等で疲弊した高知の町も沢山の観光客が訪れ、一気に元氣を取り戻し、各地で賑やかにイベントも開催されたことは、誠に喜ばしい事であったと思えます。

さて、私共の恒例の「風雅を樂しむ秋の集い」が、自由民権記念館で開催されるのは久しぶりの事で本日は、準備等の不手際、失礼の段々々あるかも知れませんが、どうぞご寛容にお許し下さいませようお願い申し上げます。

この度は、六六庵吟詠会の上本竹永先生のご協力を頂き、ご門下の先生方の吟詠も披露頂ける事になりました。心より有難く、感謝申し上げます。また、常々、お世話様になっております大崎麗蒼先生を初め、土佐麗陽会の先生方、花柳流の中岡先生、そして水心流剣詩舞道弘道館の先生方には、ご多忙の中、錦上華を添えて頂きますことに深く感謝申し上げます。

また、明德義塾高校のNIPPONクラブの生徒の皆さんによります、構成吟詠もお楽しみ頂きたいと思えます。学校では、日本文化に興味を持たれ、茶道、華道、書道などにも挑戦されています。今回のプログラム構成は内容豊富で、時間的にも余裕がありませんので、スムーズに進行出来ますように、皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

最後に、弊会の為にも大変お世話になっております。

後援会会長を初め、顧問の先生方には公私共にご繁忙の折、ご来賓を賜りますことに厚くお礼を申し上げます。秋の風雅なひと時を、皆様と共に楽しむことが出来ますことを大変嬉しく思っております。

本日は誠に有難うございました。

大会係り役員

- 大会 会長 長
- 大会 副会長 長
- 大会 実行委員会 長
- 大会 実行副委員長 長
- 大会 事務局 長

会場準備 ○

- 梶田 鵬翔
- 飯田 鵬祥
- 山中 清翔
- 川添 鵬雄
- 笹岡 鵬俊
- 川添 鵬雄
- 宝蔵 瑤光

- 笹岡 鵬俊
- 横山 熙光
- 大野 正翔
- 西山 匠貴
- 西山 匠貴
- 西村 雄紫
- 川添 鵬雄
- (屏風運搬)

受付案内 ○

- 中西 鵬鶯
- 山村 彩光
- 川村 櫻翔
- 山本 昌代

感染症対策 ○

- 山村 彩光
- 川村 鵬泉

会費会計 ○

- 飯田 鵬祥

接待 ○

- 宝蔵 瑤光
- 宝蔵 正
- 森田 千鶴
- 宗光 竹枝

司会 ○

- 飯田 鵬祥
- 松木 鴻光
- 松代 怜翔
- 戸田 燁紫

会場進行 ○

- 笹岡 鵬俊
- 大野 正翔
- 村上 剛一
- 西村 雄紫

音響 ○

- 山中 清翔
- 横山 熙光
- 鎌田 耀紫

記録広報 ○

- 川添 鵬雄
- 戸田 燁紫

「風雅を楽しむ秋の集い」 式典

〈敬称略〉

開式挨拶

山中清翔

鵬翔流吟友会理念朗読

先導

飯田鵬祥

鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

中西鵬篤

会長挨拶

梶田鵬翔

来賓挨拶

六六庵吟詠会 高知県本部 本部長

上本竹永

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

西内隆純

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

近森憲一

第一部 合吟

1 牧野博士の梅花黄蓮 作者 飯田鵬祥

女性

2 横倉山安德帝御陵を訪ぬ 作者 梶田鵬翔

男性

第二部

会員吟詠「風雅をつむぐ」

| | | | | | |
|----|-------------|----|------|-------|------|
| 13 | 峨眉山月の歌 | 作者 | 李白 | 長浜教室 | 川村鵬泉 |
| 12 | 九段の桜 | 作者 | 本宮三香 | 棧橋教室 | 公文松翔 |
| 11 | 月夜三叉口に舟を浮かぶ | 作者 | 高野蘭亭 | 蒔絵台教室 | 松代怜翔 |
| 10 | 元二の安西に使いを送る | 作者 | 王维 | 宇佐教室 | 大野正翔 |
| 9 | 磧中の作 | 作者 | 岑参 | 東雲教室 | 松木鴻光 |
| 8 | 常盤孤を抱くの囀に題す | 作者 | 梁川星巖 | 東雲教室 | 宝蔵瑤光 |
| 7 | 中秋の月 | 作者 | 蘇軾 | 高須教室 | 山村彩光 |
| 6 | 八幡公 | 作者 | 頼山陽 | 宇佐教室 | 西村雄紫 |
| 5 | 胡隱君を訪ぬ | 作者 | 高啓 | 東雲教室 | 戸田燁紫 |
| 4 | 汪倫に贈る | 作者 | 李白 | 高須教室 | 鎌田耀紫 |
| 3 | 九月十日 | 作者 | 菅原道真 | 東雲教室 | 宝蔵正 |

第三部

歌謡吟詠「歌はこころ」

14 熊本城

作詞 二木葉子

高須教室

横山照光

(舞) 水心流 劍詩舞道 弘道館

15 まず一献

作詞 西沢 爽

南国 南国 教室

笹岡 博 貴 俊

16 北上夜曲

作詞 菊池 規

蒔絵 台 教室

松代 怜 翔

17 祇王妓女

作詞 二木葉子

長浜 教室

川村 鵬 泉

第四部

構成吟 土佐の英傑「維新の道」

18 逸 題

作者 山内 容 堂

南国 教室

笹岡 鵬 俊

19 和歌 ふたたびと

作者 武市半平太

高須 教室

山村 彩 光

20 獄中の作

作者 武市半平太

東雲 教室

松木 鴻 光

21 和歌嵐山

作者 中岡兼

高須教室

飯田鵬祥

22 京都東山

作者 徳富蘇峰

高須教室

横山熙光

23 歌謡吟詠 土佐武士

作詞 丘灯至夫

高須教室

川添鵬雄

第五部

来賓華麗なる吟と舞

「花の舞」

24 お市の方

作詞 木下龍太郎(舞)

土佐麗陽会

中平麗煌

25 甲斐の虎

作詞 岩佐多歌子

土佐麗陽会

中城麗抄

26 落城

作詞 丘灯至夫

土佐麗陽会

竹内麗岱

〈順不同〉

「吟情泉の如く」

| | | | | | |
|----|----------|----|----------|------------|------|
| 27 | 富士山 | 作者 | 石川丈山 | 六六庵吟詠会 | 森田千鶴 |
| 28 | 西南の役陣中の作 | 作者 | 佐々友房 | 六六庵吟詠会 | 村上剛一 |
| 29 | 早に白帝城を発す | 作者 | 李白 | 六六庵吟詠会 | 山本昌代 |
| 30 | 胡隱君を訪ぬ | 作者 | 高啓 | 六六庵吟詠会 | 宗光竹枝 |
| 31 | 酒に対す | 作者 | 白居易 | 六六庵吟詠会 | 池畠竹洋 |
| 32 | 菊花 | 作者 | 白居易 | 高知県漢詩連盟理事 | 内田紫紅 |
| 33 | 人生の並木道 | 作詞 | 佐藤惣之助(舞) | 水心流剣詩舞道弘道館 | 濱田富美 |
| 34 | 信長 | 作詞 | 横井弘 | 水心流剣詩舞道弘道館 | 片岡千種 |

「花の舞」

35 大和慕情

作詞

岡西通雄(舞)

水心流劍詩舞道弘道館
師範

岩本靈松

36 雪椿

作詞

星野哲郎(舞)

花柳流日舞

中岡あき

第六部

明德義塾高校留学生による
構成吟詠「和漢の春を詠む」

明德義塾高等学校
日本クラブ詩吟部

ナレーション
生け花

黄曉 王府 範羽 妍

37 胡隠君を訪ぬ

作者

高啓

于浩洋

劉予驥

38 江南の春

作者

杜牧

于浩洋
楊哲昊

劉予驥
楊天燦

39 弘道館賛歌

作詞

丘灯至夫

于浩洋
楊哲昊
黄曉

劉予驥
楊天燦
王府 範羽 妍

第七部

役員・指導者吟詠

40 由布院旅情

作詞

岩佐多歌子

宇佐教室

中西鵬鶯

41 人生城

作詞 石本美由紀

高須教室

(舞) 水心流劍詩舞道弘道館
師範館

川添鵬雄
北代靈豊

42 荒城の月

作詞 土井晚翠

高須教室

飯田鵬祥

43 祝い吟 寿く黒田節く

作詞 向山コウメ

高須教室

山中清翔

第八部

会長・宗家 吟と舞

44 我が道

作詞 仁木葉子

鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

45 花街の母

作詞 もづ唱平(舞)

花柳流日舞

中岡あき

46 武田信玄

作詞 大野恵造

土佐麗陽会

大崎麗蒼

47 短歌 命ひとつ

作者 太田水穂

六六庵吟詠会高知県本部
本部長

上本竹永

48 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

川添鵬雄

